



こんなことあったよ! のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 6 月 26 日(土)  
青森県十和田市視察 編

■スケジュール

- 8:00 上町ほっとステーション 発
  - ・道の駅「ひない」とつと館:比内地鶏をキーワードに商品販売
  - ・陽気な母さんの店(大館市):産直、廃食油回収ステーション(市内業者が集配、洗剤製造)
- 11:00-13:00 十和田ホテル
- 13:15-13:40 「ゆずりは」:北東北の工芸品(現代にアレンジしたもの)等の販売
- 14:45-16:00 十和田市現代美術館
  - ・道の駅「奥入瀬」
- 20:20 上町ほっとステーション 着

午前 8 時に上町ほっとステーションを出発し、午後 8 時 30 分ころ戻ってくるまでの約 12 時間の今回の視察は、参加者が女性のみで運転手さんがモテモテの賑やかなバスツアーでした(あくまで視察です)。

今回の目的の1つ目は、「十和田ホテルのランチが、女性に人気の秘密を探る」だったのですが、十和田ホテルに着くまでに立ち寄った道の駅「ひない」や「陽気な母さんの店」では、必ず何か食べものを買ってしまうのが私だけでないということが分かってホッとしました。

十和田ホテルのランチは、予約で満席、9 割以上が女性のお客様でした。食事は少量ずつで、目で楽しめる内容かつ、全体の分量バランスが良いと感じました。値段が 2,100 円ということも魅力ですが、建物や周りのロケーションを考慮すると特にお得感を感じます。スタッフの接客も素晴らしく、参加者の皆さんは大変満足していました。

ホテル館内は自由に見学ができ、予約までの時間に見ることもでき、木の良さ、素晴らしさを感じます。木に興味がない人でも待ち時間等に見ることで、木の魅力を感じるのではないのでしょうか。全てにおいて女性の心をつかむ演出がなされ、それが人気につながっていると感じました。

途中立ち寄った道の駅や産地直売所では、比内地鶏など、その土地の特産品のネームバリューには参加者も弱いらしく、購入度が高かったです(特に食べ物です)。普段あまり外出しない方も多かったので、お土産としての購入も多く、女性の心をつかむキーワードが必要と感じました。

十和田市現代美術館は、今回の視察コースに組み込まれているので参加したという人が多かったのですが、外にオブジェを展示していて、それがまず目を引き付けました。美術館がある通りは官庁街で、転々とオブジェが展示されているので、誰でもお金をかけなくても楽しむことができます(入場料 500 円+企画展 400 円)。

正直なところ、館内より外のオブジェの方が楽しめるという



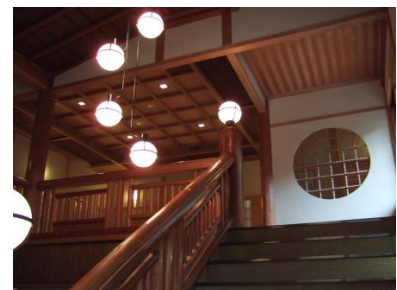
比内町では地鶏キャラクターがあちこちで見られます。



陽気な母さんの店には新鮮野菜や手作りの品々がたくさん並んでいます。



ホテルでの「森のランチ」は味も盛り付けも◎。最後のデザートまで美味しくいただきました。



和室棟には見事な秋田スギが丸太・角材・板材と色々な形を変えながらふんだんに使われています。



## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

人も多いだろうなと思いました。館内は 1 時間以内で見てまわれる展示スペースなので、今後、誘客を増やすには企画展等の工夫が必要だと思います。新たな箱ものは必要がないと思いますが、空き地の利活用として、芸術品は人の心を豊かにすると感じました。

ただ、せっかく官庁街にオブジェが点在するのに商店がなく、その他の波及効果を感じられなかったのが残念です。また、駐車場も満車だったのですが、美術館付近以外は閑散としていたのが残念でした。

十和田市内のまち並みは、個人の家が庭の手入れなどを行っていて、とてもきれいな街という印象を受けました。

今回の参加者は女性のみで、早朝から遅くまで留守にするため、家族の理解が得られることが大事で、上町自治会のように周囲で取り組んでいると出やすいということもあると思いますが、それでもなかなか大変なようでした。夫婦とその親で生活している人が多く、自分たちも 50 歳を過ぎているので、その親となると食事等の準備が大変だったり、旧市内は自営業者が多いので、家を空けられない等々問題があるようです。

お客さんも女性ですが、頑張っているまちの主人公は女性なので、たくさんの人に他の地域を見る機会が作れたら良いと感じました(今回の参加者の中には 2 年ぶりの外出という方もいました)。

帰りの車内でも誰も寝ることもなく、終始明るく元気な雰囲気、運転手さんもびっくりしていました。楽しいと感じたことも、今後の自分たちの活動に活かされると思います。

文： 進藤 香

6 月 26 日、澄みきった青空の下、上町すみれ会、万町あじさい会、そして西大通り「おかみ賛会」から私が参加させていただき、市民活力推進課の進藤さんを先導に、にぎわいのある街なみ十和田市に向かって、バスを走らせました。視察研修を通して感じたことを箇条書きにしました。

☆十和田市は自然という宝がいっぱいある街です。その宝を地元の方々が大切に、そして愛しているのだと強く感じました。十和田ホテルでのランチは、まさに豊富な自然と美味しいお料理が見事にマッチした作品と思えました。

☆十和田市現代美術館とその周辺には、「誇り高い文化」を感じました。展示作品ひとつひとつに圧倒される迫力を感じましたが、美術館そのものの存在が、十和田市民と行政の協同作品ではないかと感じました。

☆私たちの住んでいる街「能代」も宝がいっぱいあります。あとは力を合わせて、作品を創るだけなのだと、あらためて感じました。

文： 安岡 里江



十和田市現代美術館は入館せずに外をまわるだけでも幾つかの作品を味わうことができます。



十和田市にはかつて旧陸軍の軍馬補充部もあり、多くの名馬を輩出した「馬の街」です。美術館の展示品(左上)以外にも馬をモチーフにしたものを見ることができ、通りを歩くのも楽しくなります。



アートでのまちづくりの楽しさを実感しました。